

郷土を知る 昔々の そお市

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

第61回

せっかんどう
石敢當

～災いを避ける魔除け石～

今

ご紹介する「石敢當」は、中国より日本へ伝えられた魔除けの意味を持つ石造物の一つです。

石敢當とは、自然石や加工石に「石敢當」の三文字が刻まれたもので、大きさや形は様々です。おもに三差路の突き当りに設置されています。これは直進した「魔」物が石敢當に当たると碎け散るといわれ、その名は無敵を意味する中国の武將名に由来するとの説があります。中国との交流が深かった沖縄県に集中して分布しており、次いで沖縄との歴史的関係が深い南九州に数多く残されています。国内でいつ頃から石敢當が設置されるようになったのか詳しいことは不明ですが、志布志市松山町泰野には元和2年（1616）の記銘が残る石敢當が現存しており、年号が確認できるものとしては国内最古と言われています。

市内では現在12基程の石敢當が確認されています。財部小学校周辺には3基の石敢當が集中して分布しています。財部小西側の城ノ口地区には2基の石敢當があり、うち1基は民家の石塀に組み込まれた姿で設置されています。武士が集住した「麓」の面影を残す風景の中に位置し、三差路の突き当りに石敢當が位置する状況がわかります。



下飯屋の石敢當

また財部小東側J Aそお鹿児島財部支店裏の下飯屋地区の石敢當は比較的小型の石敢當ですが、製作者の勘違いなのでしょう。か「當石散」と刻まれているところが特徴的です。ごく近い範囲でこれら3基の石敢當が所在していますので散策がてら見学するのも面白いでしょう。

市内に限らず南九州一帯では多数の石敢當が見られますので、お出かけの際は、ぜひ道端に佇む石敢當を意識してみてください。そこで生活する人々の「災いを避け、生活の安泰を願う」思いが感じられるはずです。

※市内の石敢當の位置を知りたい方は文化財係までお問い合わせください



【アクセス】



城ノ口の石敢當（カーブミラー左下）
右手側約100m先に城ノ口の石敢當（西側）があります